

# CSR Initiatives

## CSRへの取り組み

「日本の日野から、世界のHINOへ」の転換は、事業にとどまりません。たゆまぬ技術の追求、徹底した環境への配慮、そして社会性や倫理性の遵守など、企業全般にわたる質的向上があつてこそ、初めて実現できると考えています。そして、その事業活動においては、株主・顧客・従業員・取引先など、すべてのステークホルダーに価値ある存在であるとともに、環境と調和し、自然と共存することを基本方針としています。



# Corporate Governance and Compliance Initiatives

## コーポレート・ガバナンス、コンプライアンスへの取り組み

### コーポレート・ガバナンスに対する基本的な考え方

日野自動車では、法的機関である株主総会や監査役会などによる経営監視はもとより、執行役員制を採用することで経営と執行を分離し、経営の透明性を高めています。また、経営陣および従業員の行動指針を明確に示した「日野倫理綱領」を制定するとともに、本綱領を遵守すべく副社長を委員長とする「倫理委員会」を設置しています。

### コーポレート・ガバナンスの実施状況

#### (1) 会社の機関

監査役会は常勤監査役2名および社外監査役3名で構成されています。また、株主総会、取締役会、監査役会といった法定の機関に加え、全社重要方針、施策の審議や経営管理に必要な情報の報告等を行うための経営会議などを設けています。

#### (2) 内部統制システムおよびリスク管理体制の整備の状況

日野自動車は、社内の内部統制システムを監視することを目的として、監査室を設置しています。また、社内のコンプライアンス体制構築の一環として、経営陣および従業員の行動指針を明確にした「日野倫理綱領」を制定し、本綱領を遵守すべく「倫理委員会」を設置しています。なお、倫理綱領については、子会社への展開を図ることにより、グループ全体でのリスク管理体制の強化を図っています。

# Environmental Protection

環境保全活動



日野自動車は、1993年3月、環境保全活動の総合的な推進をめざし、「日野地球環境憲章」と具体的な行動計画「日野自動車環境ボランティアプラン」を策定しました。同時に、社長を委員長とする「日野環境委員会」を全社組織として設置し、環境保全活動を推進しています。さらに下部組織として「製品環境委員会」「生産環境委員会」を設置し、ボランティアプランに基づく具体的な取り組みを推進しています。2002年3月には、「リサイクル委員会」と「販社環境委員会」を新設しました。リサイクル委員会は、自動車リサイクル法制定に伴う各種業務への対応と社内システム構築を図り、販社環境委員会は販売会社における環境管理体制構築の推進強化を目的としています。

さらに日野自動車では、環境マネジメントシステムISO14001認証取得を拡大し、システムの拡充をめざしています。また、自社における取り組みを推進するばかりではなく、国内外関連会社、販売会社を含めた日野グループでの環境保全にも取り組んでいます。

2005年3月期の環境保全コストは278億61百万円で、売上高に占める割合は2.7%でした。経済効果では、省エネルギーによるエネルギー費削減などで総額769百万円となりました。

## 日野自動車の低公害技術

日野自動車の低公害技術の代表的なものとして、1991年に世界で初めて大型バスで実用化したディーゼル電気ハイブリッドシステムがあります。2003年11月に小型トラック「日野デュトロ」シリーズで、世界で初めて2トン積トラックで同システムを進化させたハイブリッドトラックを発売し、2004年には中型トラック、2005年にはバスへとラインアップを拡大しています。

また、DPRシステム(Diesel Particulate active Reduction system)では、低公害ディーゼルエンジンと捕集率95%を誇る「DPR-クリーナー」との協調制御により、捕集した粒子状物質(PM)を燃焼処理します。この高性能DPRシステム装着の新型ディーゼルエンジンとハイブリッドシステムの組み合わせでは、NOxを大幅に低減し、さらに燃費も現行ディーゼル車比約1.3倍を実現しています。

# Hino Safety Measures

お客様に対する考え方



日野自動車は、お客様に対し、製品開発からアフターサービスに至るすべてのプロセスで、製品の安全性向上に取り組んでいます。

## 安全技術の徹底した追求

日野自動車では、アクティブセーフティ、パッシブセーフティの両面からトータルな車両の安全性向上に取り組んでいます。安全に関する研究開発は、次の4段階に分けられます。

- 0次. 事故の原因となるドライバー疲労の未然防止対策
- 1次. 衝突やスリップなど事故の発生を回避する、走る・曲がる・止まるの基本機能の向上
- 2次. 事故発生時の乗員・乗客の保護対策
- 3次. 歩行者や二輪車等第三者の被害防止対策

日野自動車では、これらの安全性を総合的に向上することをめざし、研究開発を行っています。

## アフターサービスプログラム

日野自動車では、販売後の製品に対する生産責任を、徹底したアフターサービスとお客様対応によって追求しています。点検、修理などのアフターサービスプログラムを作成し、お客様への呼びかけを行っています。サービス内容は、メンテナンスリース、年間整備契約の提供による予防整備の展開です。

## お客様お問い合わせ対応

お客様相談窓口を設置し、お客様からのさまざまなお問い合わせや苦情などに対応し、今後の活動に反映するシステムを構築しています。

## リコール・回収等の状況

世界の販売店から市場状況を収集する体制を構築し、収集した情報は品質保証部に集約して情報の分析、ならびに必要に応じて現地調査や不具合品の回収・解析を行い、全社体制で対策を推進しています。また、品質保証部は商品に欠陥ありと認められ、処置を講じる必要があると判断した場合は、届出、告知、製品の回収、無償での修理など、必要な対策を実施します。